令和2年度訪問型家庭教育支援推進事業シンポジウムを開催しました

「地域全体で支える教育～保護者に寄り添う支援を目指して～」

開催日時：令和２年８月３１日（月曜日）
会場：和歌山県民文化会館　　大ホール
日程：開会　　１３:００
行政説明　　１３:０５
熊丸　みつ子氏　講演　　１３:２０
パネルディスカッション　　１４:３０
コーディネーター　善野八千子氏
パネリスト　　熊丸みつ子氏
　　林　明子　氏
善野八千子氏　　講演　　１５:２５～

令和2年度訪問型家庭教育支援推進事業シンポジウムを開催いたしました。
互いの間隔を広くとり、検温・消毒の徹底等、コロナウイルス感染拡大防止対策を行い、無事に終えることができました。
コーディネーター及び講師に奈良学園大学　社会・国際連携センターセンター長　人間教育学部　教授　善野八千子氏、講師及びパネリストに幼児教育専門家に熊丸みつ子氏をお迎えし、コロナ禍ではありましたが、１４０人を超える方々にご来場いただき、盛会でした。

シンポジウムアンケートより　感想等　1

☆全てのご意見をご紹介できないため、一部ご紹介致します。

保護者・一般

〇子供たちに**伝えていくことの大切さ**を知り、子供たちと向き合って注意したり、ほめたりして子供の育ちを考えていこうと思うことができました。
〇アドバイスが欲しいわけではなく聞いて欲しい時の方が多いので「**聞き取る力**」のある方が担当になってほしい。
〇家庭教育支援のようなものがあることを知らずに、しんどい思いをしている人が多いと思う。私も**早く知りたかった**。「甘えてもいい」・「助けてもらってもいい」ということを、もっとみんなの耳に届くように知らせて欲しい。
〇相手が誰であっても電話をかけるということにハードルの高さを感じる世代が子育て世代であるので、わざわざ保健センターなどに相談しにくい。もっと**気軽に**相談できればいいのに…。
〇自分が住んでいる地域のことをもっと知る努力をします。

園・学校教員

〇小学校教員としては、就学時健診時に　全教職員の目で見て、まずは自分たちでできることを実践し、そして地域支援員と**連携**していきたいです。
〇「子供は大人から与えてもらったものを出していく」・「イライラするのは大人も子供も順調！」など心に残る講演でした。
〇縦のつながりだけではなく、横のつながりを広げ、保護者の気持ちを受け止め、正しい支援へとつなげたい。
〇子供との関わり方を学びました。また、保護者にとってすぐ話せる場所になれるよう努めます。

シンポジウムアンケートより(抜粋)　感想等　2

行政関係者

〇実践に基づく話が中心だったので、**段階的に**理解を深めることができた。
〇地域の**豊富な人材**を学校にどのように結びつけていくかが今後の課題であると感じました。
〇困っていることがわからない保護者こそが支援の必要な家庭という話が印象に残った。そのような家庭にどのように**アプローチ**していくか、また、受援力(※下記)を高めてもらうかが大きな課題だと思った。
〇もっと**一般の母親に**聞いてもらいたいシンポジウムであった。
〇**笑顔**で子供たちと接することの大事さを再確認しました。
〇今まで子育てしてきてイライラ・ギャーギャーがありました。それもよかったのだと肯定できました。
いろいろとあった子育てでしたが、今日はお話を聞いて　**自分を褒めよう**と思いました。
〇信頼関係をつくり、困っていることを共有することができる支援の仕組みを作らなければならない。
〇学校の受援力も必要。一緒にやらなければならないことがたくさんあるということを学校と**共有**したい。
今日学んだことを少しでも実践できるように勇気をもってやっていこうと思った。

家庭教育支援関係者

〇全ての家庭の子供達が幸せに、そして地域の人に関わりながら育っていって欲しいです。時代は変わり子供たちの環境も変わってきているので難しいですが、いつでも**本気**で接していこうと思います。
〇親、学校、地域との連携が子供の幸せにつながります。家庭の信頼を得ることの難しさ、問題を抱えている家庭に対する**見極め**が大事だと思いました。
〇学校に、もっと気軽に家庭訪問を依頼してもらえるようになるために、今していることをどんどん続けて学校との**信頼関係**を作らなければいけない。
〇**受援力**の育まれる環境を作ることが地域が育っていくということ。「話をしたくなるような支援者」になることが大切だ。
〇**学校から**困っていることの発信が欲しい。
〇核家族化が進みさみしい思いをしている子供が多い。地域のおばちゃんとして少しでも子供達に笑顔を届けられるように支援していきたい。

※「受援力（じゅえんりょく）」とは・・・周りの人に「助けて」といえる力
日々の暮らしの中で周りに頼らず、なんでも「自分でやらなくては！」と背負い込み、小さながまんをため続けてしまうと、知らず知らずのうちにエネルギーが奪われ、苦しくなってしまう。育児、家事、仕事と忙しい毎日を送る親こそが最も備えたい力。善野氏講演より
【出典】・NHKクローズアップ現代取材班「助けてと言えない―いま30代に何が」
・吉田穂波「時間がない」から、なんでもできる！（P117）

ご参加いただいた皆様からたくさんのご意見をいただくことができました。
和歌山県に家庭教育支援の輪が広がっていくことをめざします。
たくさんのご参加ありがとうございました！！